

第 31 期 第 1 四半期報告書

(2024 年 7 月 1 日から 9 月 30 日まで)



2024 年 11 月 27 日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)

英文名 (英文商号)

代表者の役職氏名

本店の所在地

電話番号

連絡先

株式会社 旅籠屋

Hatagoya & Company

代表取締役 甲斐 真

東京都台東区寿 3 丁目 3 番 4 号

03-3847-8858

取締役 亀井 明

I 当期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別 科目	前年度 第 1 四半期 2023.7.1～ 2023.9.30	前年度 第 2 四半期 2023.10.1～ 2023.12.31	当年度 第 3 四半期 2024.1.1～ 2024.3.31	当年度 第 4 四半期 2024.4.1～ 2024.6.30	当年度 第 1 四半期 2024.7.1～ 2024.9.30	当年度 累計 2024.7.1～ 2024.9.30	前年同期比	前年度 同期累計 2023.7.1～ 2023.9.30
I 営業収益 売上高	752,013	596,093	532,118	551,534	730,974	730,974	▲2.8%	752,013
II 営業費用 売上原価	473,785	473,217	480,593	495,684	488,293	488,293	+3.1%	473,785
販売費及び一般管理費	61,773	72,732	58,779	65,812	64,787	64,787	+4.9%	61,773
営業利益または営業損失(▲)	216,454	50,143	▲7,254	▲9,962	177,894	177,894	▲17.8%	216,454
III 営業外収益	1,172	2,556	1,719	2,304	1,717	1,717	+46.5%	1,172
IV 営業外費用	8,033	8,197	7,484	17,328	8,213	8,213	+2.2%	8,033
経常利益または経常損失(▲)	209,593	44,502	▲13,018	▲24,986	171,397	171,397	▲18.2%	209,593
V 特別利益	—	—	—	—	59,211	59,211	—	—
VI 特別損失	23,859	0	2,184	300	25,570	25,570	+7.2%	23,859
税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	185,734	44,502	▲15,203	▲25,286	205,039	205,039	+10.4%	185,734
法人税、住民税	4,383	4,383	4,383	3,947	4,115	4,115	▲6.1%	4,383
法人税等還付額	—	—	—	—	—	—	—	—
法人税等調整額	—	—	—	▲31,349	—	—	—	—
四半期(当期)純利益または純損失(▲)	181,350	40,119	▲19,586	2,114	200,924	200,924	+10.8%	181,350
期中平均株式数	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	—	5,589
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	32,447 円	7,178 円	▲3,505 円	378 円	35,950 円	35,950 円	+3,503 円	32,447 円

- ・潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- ・当年度第1四半期の特別利益 59,211 千円は、当年度期首に所有権移転外ファイナンスリース取引を、通常の会計処理に戻したことに由来するものです。

(2) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

期別 科目			前年度 第 1 四半期末 2023.9.30	前年度 第 2 四半期末 2023.12.31	前年度 第 3 四半期末 2024.3.31	前年度 第 4 四半期末 2024.6.30	当年度 第 1 四半期末 2024.9.30
(資産の部)	I 流動資産	現金預金	982,726	953,960	759,292	783,127	827,023
		その他	108,151	140,892	179,078	225,106	265,027
	流動資産合計		1,090,878	1,094,853	938,371	1,008,234	1,092,050
	II 固定資産	リース資産	222,395	212,425	202,962	192,486	—
		他の有形固定資産	834,781	814,580	797,472	784,927	810,274
		無形固定資産(リース資産を含む)	3,704	1,703	1,008	543	17,303
		投資その他の資産	254,104	253,202	252,404	203,669	203,020
	固定資産合計		1,314,986	1,281,912	1,253,847	1,181,626	1,030,598
	資産合計		2,405,865	2,376,766	2,192,219	2,189,860	2,122,649
(負債の部)	I 流動負債		410,019	353,087	199,608	293,783	227,324
	II 固定負債	リース債務	239,578	227,093	215,080	201,609	—
		他の固定負債	1,871,631	1,871,829	1,872,361	1,787,184	1,787,116
	負債合計		2,521,229	2,452,010	2,287,050	2,282,577	2,014,441
(純資産の部)	I 株主資本	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
		その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
		利益剰余金 繰越利益剰余金	▲269,192	▲229,072	▲248,659	▲246,545	▲45,620
		自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
	株主資本合計		▲115,363	▲75,244	▲94,831	▲92,716	108,207
	純資産合計		▲115,363	▲75,244	▲94,831	▲92,716	108,207
	負債・純資産合計		2,405,865	2,376,766	2,192,219	2,181,972	2,122,649
	発行済株式総数(株)		5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株	5,589 株
	1株当たり純資産(円)		▲20,641 円	▲13,463 円	▲16,967 円	▲16,589 円	19,361 円

- ・リース資産とリース債務は 0 となっているのは、所有権移転外ファイナンスリース取引を、通常の会計処理に戻したことによるものです。
- ・他の固定負債のうち、商工組合中央金庫からの 300,000 千円と日本政策投資銀行からの 300,000 千円は、それぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本とみなされるものです。

(3) 株主資本等変動計算書 (2024 年 7 月 1 日～9 月 30 日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他 利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲246,545	▲56,798	▲92,716	▲92,716
第 1 四半期中の変動額 四半期純利益				200,924		200,924	200,924
第 1 四半期中の変動額の合計				200,924		200,924	200,924
2024 年 9 月 30 日残高	100,000	68,916	41,710	▲45,620	▲56,798	108,207	108,207

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第30期事業報告書 注記表 I.重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。

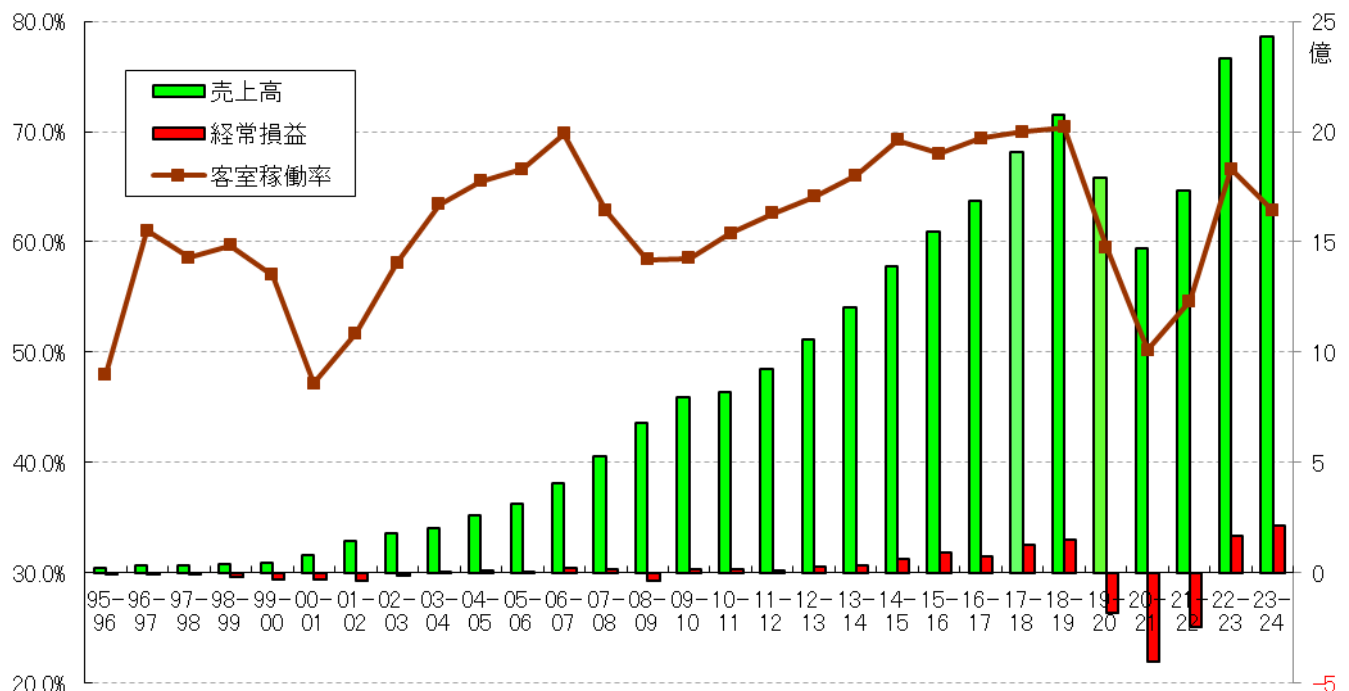
ただし、当年度より所有権移転買収ファイナンスリース取引については、通常の処理に戻しております。

なお、事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
- 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
- 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。

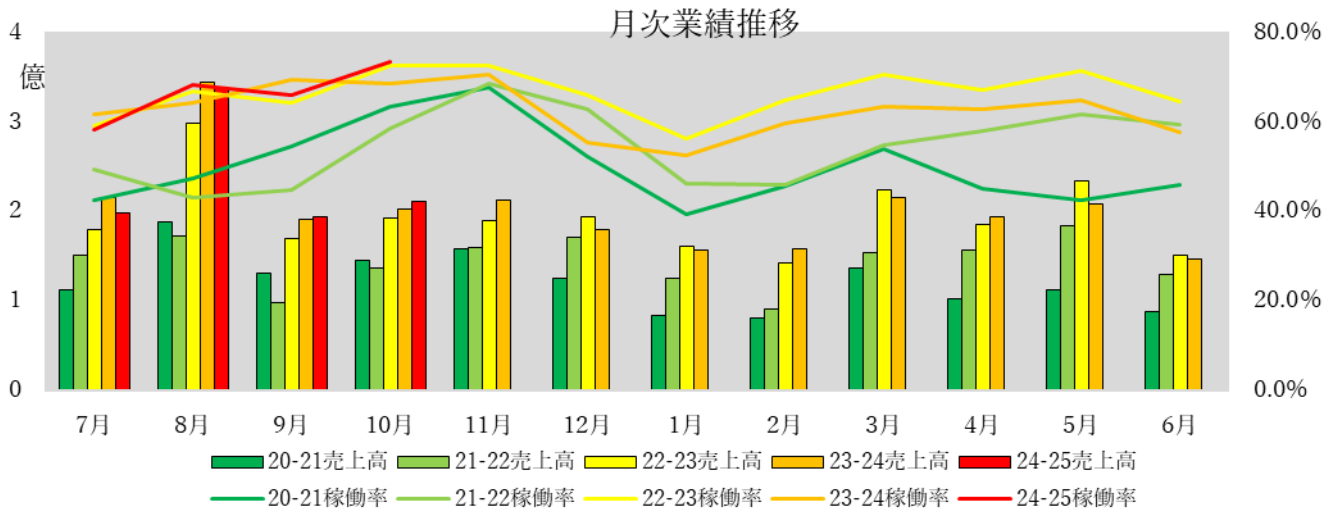
Ⅱ 第 31 期 (2024 年 7 月 1 日～9 月 30 日) の業績の概況

前年度までの、売上高・経常損益・客室稼働率(全社合計)の年度別推移 (通期)



前年度までの推移ですが、コロナ禍により 2020 年から 2022 年にかけて売上が急減し、3 期連続で経常赤字となりましたが、コロナ禍の収束と 2 度の室料値上げにより前年度は売上高、経常利益とも過去最高となりました。ただし、客室稼働率はコロナ前には戻っておりません。なお、前年度において「北上江釣子店」と「秋田六郷店」は契約期間満了により閉店、「那須店」と「日光鬼怒川店」はそれぞれ建替えと補修工事のため一時休業、「金沢内灘店」は能登地震により閉店し、営業中の店舗は現時点で 72 店舗となっております。

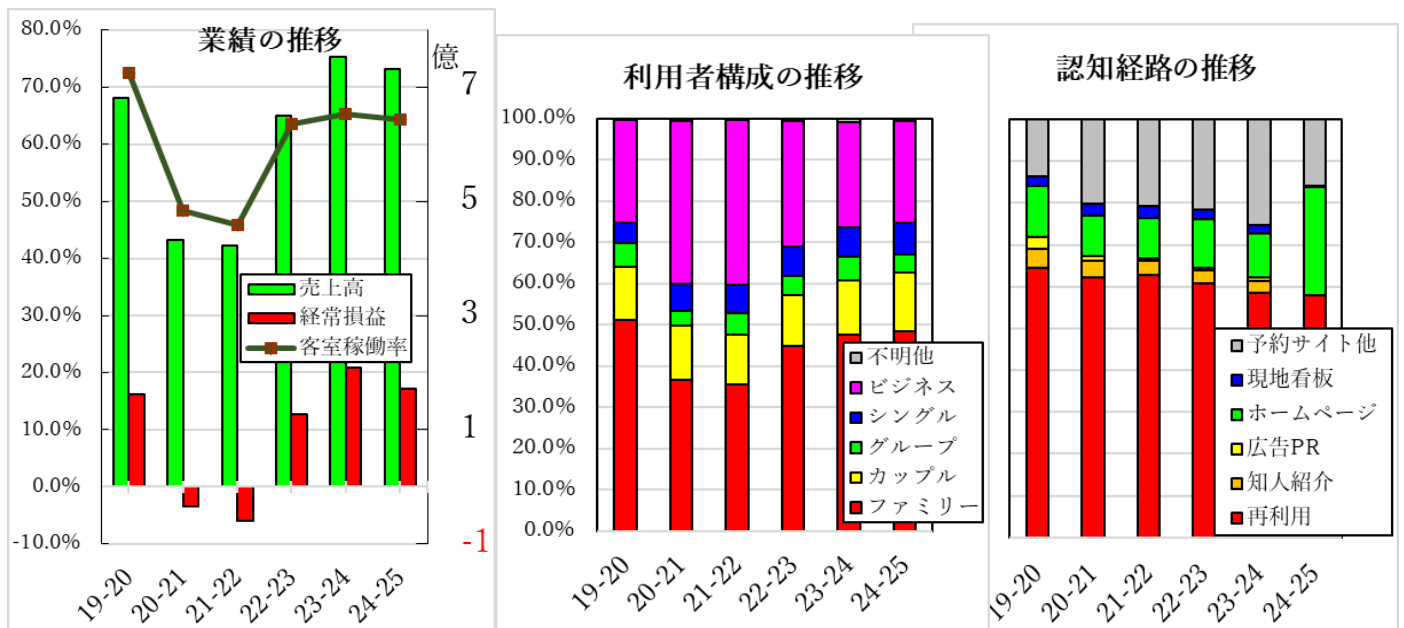
月次の業績推移



売上高については、2022 年春以降 2023 年夏頃までは前年同月を大きく上回りコロナ禍からの回復基調が続いていましたが、その後は増減を繰り返すようになり、今年 5 月以降は前年を下回る状況が続いていました。しかし、9 月からは上回る状況となっています。

稼働率についても、2021 年 12 月以降回復基調にありましたが、2023 年 12 月以降は前年を 5 ポイント以上下回る状況が続いていました。しかし、2024 年 7 月からは前年並みとなり、10 月は 73.7%と好調で、前年を 5 ポイント上回っています。

第 1 四半期の推移 (7 月 1 日～9 月 30 日)



第 1 四半期の過去 5 期との比較では、売上高・経常利益・客室稼働率とも、コロナ禍の収束により急回復したものの、前年度を下回っています。

利用者構成は、コロナ禍前に比べてファミリー客の割合がわずかながら減少しています。

また、認知経路は、リピーターの割合が減少し、ホームページの割合が増えています。

Ⅲ 第 31 期の売上高および利益の予測について (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目 \ 期別	第 27 期 通期実績 2020.7.1～2021.6.30	第 28 期 通期実績 2021.7.1～2022.6.30	第 29 期 通期実績 2022.7.1～2023.6.30	第 30 期 通期実績 2023.7.1～2024.6.30	第 31 期 通期予想 2024.7.1～2025.6.30
売上高	1,468,293	1,735,040	2,330,659	2,431,760	2,471,000
経常損益	▲400,658	▲246,384	169,268	216,090	205,000
当期純損益	▲417,101	▲329,585	200,088	203,997	120,000

IV 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 1 四半期 2023.7.1～9.30	第 30 期第 2 四半期 2023.10.1～12.31	第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30
現金および預金の増減額	+168,602	▲28,765	▲194,667	+23,835	+43,895
現金および預金の四半期首残高	814,124	982,726	953,960	759,292	783,127
現金および預金の四半期末残高	982,726	953,960	759,292	783,127	827,023

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 1 四半期 2023.7.1～9.30	第 30 期第 2 四半期 2023.10.1～12.31	第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30
短期借入金の増減額	—	—	▲152,344	+84,976	—
短期借入金の四半期首残高	152,344	152,344	152,344	0	84,976
短期借入金の四半期末残高	152,344	152,344	0	84,976	84,976

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	期 第 30 期第 1 四半期 2023.7.1～9.30	第 30 期第 2 四半期 2023.10.1～12.31	第 30 期第 3 四半期 2024.1.1～3.31	第 30 期第 4 四半期 2024.4.1～6.30	第 31 期第 1 四半期 2024.7.1～9.30
長期借入金の増減額	—	—	—	▲84,976	—
長期借入金の四半期首残高	1,847,831	1,847,831	1,847,831	1,847,831	1,762,852
長期借入金の四半期末残高	1,847,831	1,847,831	1,847,831	1,762,852	1,762,852

(4) 投資その他の資産の内訳 第 31 期第 1 四半期末 (2024 年 9 月 30 日) 時点 (千円未満は切り捨てて表示)

172,750 千円	… 借上直営店における差入れ保証金 (契約満了時返済)
26,535 千円	… 貸付金
1,210 千円	… 取引信用金庫などへの出資金
1,325 千円	… 信用保証協会への信用保証料
1,165 千円	… 繰延税金資産
34 千円	… リサイクル預託金
合計 203,020 千円	

V 今後の事業展開について

経営陣の刷新

9 月 20 日開催の定時株主総会において、従前の取締役 3 名全員が退任し、以下の者があらたに選任されました。

代表取締役	甲斐 真	1994 年に弊社創業。2021 年 9 月に退任し、3 年ぶりに復帰。
専務取締役	鍵山 文厚	1998 年 7 月入社。2017 年 9 月に退任し、7 年ぶりに復帰。
取締役店舗管理部長	石井 克己	2008 年入社。前施設管理部長。
取締役総務部長	亀井 明	2016 年 11 月入社。前総務部次長。

いずれも、長年にわたる業務経験を活かし、弊社の安定した維持発展に寄与することを期待しております。

エリアサポーターの設置

70 を超える店舗が全国に散在しているため、その質や社内のコミュニケーションを維持することが難しくなっています。そのため、全国を 7 ブロックに分け、近隣に居住する支配人経験者などをエリアサポーターとして配置し、心身両面で支配人を支え、店舗状況の維持改善を図ることとしました。すでに 11 月 1 日より業務がスタートしています。

「旅籠屋らしさ」を守り、「清潔であたたかい宿、清潔であたたかい職場」を目指しております。

「日光鬼怒川店」「那須店」の営業再開予定と「金沢内灘店」の営業終了

「日光鬼怒川店」は、建物の老朽化と設備不調により、2023 年 12 月下旬に営業を停止していましたが、補修工事を行い、2025 年 3 月 1 日より営業を再開する予定です。

「那須店」は、建物の老朽化により 2023 年 9 月に営業を停止し、建物を解体しましたが、2025 年春に新築工事に着手し、7 月には営業を再開する予定です。

「金沢内灘店」は、1 月の能登地震による建物損傷により営業を停止していましたが、契約の残存期間が 3 年弱ということもあり、オーナーとの協議により補修を断念し近々建物を取り壊すこととなり、営業終了が最終的に決定いたしました。

新規出店計画

出店に関する問い合わせが継続して寄せられており、10 件前後の案件について協議を進めております。ただし、建築費の高騰により成約に至る可能性は高くありません。「那須店」の新築計画において建築コストの低減を試みており、その状況を見ながら、慎重に具体化を図っていきたいと考えております。

以上

